

令和7年度 授業改善推進プラン<理科>

大田区立大森第十中学校

○理科における令和7年度授業改善プランの検証

- ・ 取り組みにおける成果と課題
昨年度の授業改善のポイントとして、
①「苦手領域（粒子領域）の克服」 ②「基礎的な知識の定着」
③「思考、判断、表現能力の向上」を設定した。
- ・ 成果として
第1学年において
① 全ての領域において目標値に対して同程度だった。
② 課題である「基礎的な知識の定着」において、目標値に対して同程度だった。
③ 思考、判断、表現の技能において、目標値に対して同程度だった。
第2学年において
① 生命の領域以外は目標値に対して同程度だった。
② 基礎的な内容において目標値に対して同程度だった。
③ 知識・技術において目標値に対して同程度だった。
第3学年において
① エネルギーの領域において目標値を下回っている。
② 活用的な内容について目標値に対して同程度だった。
③ 思考、判断、表現の技能と、知識・技能について目標値に対して同程度だった。
- ・ 課題として
第1学年において
「生地」の領域は目標値と同程度と同程度か上回っているものが多いが、「物工」の領域は目標値と同程度か下回っているものが多い。
第2学年において
生命の領域のみ正答率が、目標値を下回っている。ドリルパーク等を使用し、復習させる。
第3学年において
電流の性質についての問題の正答率が、目標値を大きく下回っている。逆に生命については目標値を上回っている

○理科における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和7年度結果		令和6年度結果		令和5年度結果	
第1学年	全体 基礎 活用	≡ ≡ ≡	△ ≡ △		≡ ≡ △	
第2学年	全体 基礎 活用	≡ ≡ ≡				
第3学年	全体 基礎 活用	≡ ≡ ≡	全体 基礎 活用	≡ ≡ ▼	全体 基礎 活用	≡ ≡ △

内容別 結果の 分析	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年では、目標値に対して基礎的内容も活用的内容も目標値と同程度だった。 ・第2学年では、目標値に対して基礎的内容も活用的内容も目標値と同程度だった。記述形式が目標値より下回った。 ・第3学年では、目標値に対して基礎的内容も活用的内容も同程度だった。
観点別 結果の 分析	<p>1年 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のいずれにおいても目標値と同程度だった。</p> <p>2年 「思考・判断・表現」「知識・技能」においても目標値と同程度だった。</p> <p>3年 「思考・判断・表現」「知識・技能」においても目標値と同程度だった。</p>

○調査結果に基づいた授業改善のポイント

1	<p>正答率が比較的低く、苦手とされる領域の克服</p> <p>→ 特にエネルギーと粒子の領域において、既習事項の復習から取り組み、ICTを活用した授業を展開し、手厚い指導を行う。</p>
2	<p>基礎的な知識の定着</p> <p>→ 小テストの機会を設けて、理解度の向上を図る。</p>
3	<p>思考、判断、表現能力の向上</p> <p>→ 観察・実験の回数を維持しつつ、科学的な思考・表現能力の向上のために、「なぜ」「どうして」を重視した考察能力を育成する。</p> <p>→ 「長文」「単文」解答形式能力の向上のため、書く表現力を重視し、レポートの考察を行わせる。</p>

○理科の授業改善策

1年	<p>目標値を大きく下回った項目には、「物が燃えた後の集気びんの組成」、「蒸散の理解」「火山灰観察の操作」など実験・観察に関わる内容が多かった。実験の結果を通して、自分の考えをしっかりと考察させ、理解を深める学習をしていく。</p>
2年	<p>2学期は「化学変化と原子・分子」に関して、元素記号を用いて物質や化学変化を表す化学式、化学反応式は今後の化学の学習の基礎になるところである。同時に化学領域に苦手意識をもつきっかけになるため、手厚い指導をしていく。また、1学期に行った「生命の維持活動」もICTを活用することで、繰り返し復習し、知識の定着を図る。</p>
3年	<p>「イオン」に関して、電子のやりとりと原子の変化に着目しながら学習を行う。特に知識定着のよくなかった化学領域の元素記号や化学用語、化学反応式について授業の中で復習し、新しい展開になるイオン式と関連付けて理解する。復習にはなるが、電気に関する法則についても小テストを繰り返して知識を定着させ、「イオン」の電気的な挙動の考え方と関連づけて理解する。</p>